

私には24歳の息子がいます。一昨年アメリカの大学を卒業しました。彼はアメリカでの就職を望み、帰国ギリギリまで就職活動を続けましたが、夢叶わず、東京に戻り、コンサル系の会社で社会人生活をスタートさせました。

約2カ月の研修期間は同期達との交流が楽しく、学生時代と同じようなノリでしたが、その後各々が各プロジェクトに派遣され、本格的なコンサルライフが始まりました。コンサル会社の新入社員といえば、帰宅は毎日深夜、会社に寝泊まりする事も珍しくないというイメージです。実際息子もそういう日々が続きました。けれども今年の夏前から仕事のスタイルが激変したのです。夕方帰宅したり、家で仕事をする事が多くなりました。圧倒的に会社に居る時間が少なくなったのです。夏前から始まったプロジェクトは大手自動車メーカーのグローバル戦略です。息子の上司のプロジェクトリーダーはインド人、対するメーカーの担当トップはフランス人と日本人。海外マーケット拡大のためのプロジェクトなので、業務は全て英語で行われます。グローバルスタンダードな働き方と言えるかもしれません。

今日日本では「働き方改革」が話題となって

## 『日本は働き方改革できるのか!?!』

文 朝倉匠子 text by Shoko Asakura

います。日本の生産性、効率は驚くほど低いとされています。会社帰りに近所のボルダリング施設に通う息子に「同じコンサルでも何が違うところ変わるの」と質問すると、「海外でも深夜まで働く事はあるけれど、基本たくさん働く事が正しい事だとは思っていない。例えば電通の事件は電通自身の問題もあるけど、それを強いるクライアントの問題もある。日本はクライアント至上主義だから。今の英語圏の国では例えクライアントでも無理を強ければ、それを指摘して、『No』と言えるし、クライアントと議論できる。もしそのことで会社が怒ったら、辞めて転職すればよい。つまり長年の『終身雇用』という制度が今の日本の効率の悪さを生んだ要因じゃないかなあ」という答。

働き方に完璧はないけれど、日本の緻密さは父親不在の家庭が当たり前の上になりつつあるのだと改めて思う答でした。



『35歳からのダイエット革命 (Discover21)』  
定価1,404円(税込)  
好評発売中



### Profile

広島生まれ東京育ち。青山学院文学部英米文学科卒業。学生時代よりコマースモデルとして活躍、その後テレビ司会者や経済インタビューとして活躍し、渡米。10年間メディア活動を休止。その間カリフォルニア大学で「NPOマネジメント」及び「ジェロントロジー(加齢学)」を学び、「エイジング・スペシャリスト」として再びメディア活動に復帰。「能動的・精神的・美的加齢法」をベースに医療や心理学、社会学等最先端情報と連携しながら、多くの方々と共に年齢を積み重ねることの楽しさ、自信、そして若々しさ、美しさを育てる「アクティブ・エイジング」を提唱する活動を行っている。現在、NPO法人アンチエイジングネットワーク理事、日本抗加齢医学会正会員などで活躍中。